

統合科学：自然災害の科学(2)

授業内容：

気象現象のメカニズムに関する基礎知識
気象現象による災害（洪水災害、土石流災害、高潮災害、斜面災害など）
気象災害への対策、被害軽減策
温暖化と気象災害
気象災害との複合災害

第10回～第12回、担当・矢守

概要：自然災害と人間の関わりについて、心理学、教育学、社会学、文化人類学、法学といった社会科学の観点から学ぶ。災害マネジメントサイクルに従って、事前の準備期、突発災害に対する対応期、その後の復旧・復興期にわたる課題をバランスよく学習することをめざす。

Keywords: 災害心理・防災教育・リスク認知・復興支援・災害文化・災害関連法

授業内容：

自然災害と人間：災害リスク認知、防災教育、防災/減災、災害時の集合行動、心のケアなど
自然災害と社会：被災者支援、被災地復興、災害情報、危機管理、防災計画など
自然災害と世界：防災・復興をめぐる国際協力、災害文化、被災地復興、貧困と防災など

第13、14回 総合討論、教員全員

・総合討論：危機対応の対策——担当教員全員出席のもと、受講生全員が自然災害やその対策についての意見を紹介したあと、受講生を5～10人程度のグループに分け、それぞれが選択した検討課題について討論を実施する。議論の進め方として、まず、「問題の因果関係：ツリー構造」を整理し、それを基に、解決策を議論することとする。課題例を以下に列挙したが、受講生から良い課題例ができれば、それを採用することも可能。

課題例1：突発集中豪雨からの災害を避ける有効な方策はなにか？

情報伝達方法？居住地の特性？避難場所？

課題例2：地球温暖化の中での生活インフラや工業団地の設置場所は？ e.g. タイ大洪水

課題例3：津波避難のための有効な方策はなにか？

情報伝達方法？防潮堤？避難所？

課題例4：京都周辺の活断層で直下型地震が生じた時どう対応するか？

帰宅の可否、帰宅不能時の対応、安否確認方法

課題例5：京都周辺で想定される複合災害は何か？どのような対策が有効か？

課題例6：広域大規模災害の想定および対策はどのようにすれば合意できるか？

課題例7：広域大規模気象災害に対する有効な対策はなにか？

課題例8：火山噴火が発生した時どう対応するか？

課題例9：自助・共助・公助・外助を有効にするために日頃からどのようなことができるか？

課題例10：創造的な復興としてどのようなことができるのか？

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

12回の授業と2回の総合討論での平常点（勉学態度等）と個別の内容の理解力を確かめるためのレポート課題。総合討論では、各自の関与度も評価の対象になります。
各評価項目の割合の詳細は講義で説明します。

統合科学：自然災害の科学(3)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

寶 馨・戸田圭一・橋本学ぶ『自然災害と防災の事典』(丸善) ISBN:978-4-621-08445-8 C 3044

[授業外学修(予習・復習)等]

授業にあたっては資料を配布するので、その要点を復習すること。また、それぞれの自然災害項目や、実際に自然災害が発生した場合には、インターネットや関連図書を通じて、各自で調査し、授業内容と関連して考えること。

[その他(オフィスアワー等)]

特別な予備知識は必要としない。